

2027年度 中学部入試問題について

国府台女子学院中学部

1. 2026年度入試の問題分析

①推薦入試

平均点は59.9点。試験内容は、例年と同様に、知識問題(問九まで・40点)と短めの文章読解(問十・60点)を含む小問集合でした。2026年度の小問集合は前年度と同等レベルで、知識問題の正答率は47.0%。問一の漢字の読み書きは比較的よくできていました(④「発破」は難しかったようですが①「薬液」は93%以上の正答率でした)。問四の紛らわしい言葉の問題や、問五の共通する漢字を答えて熟語を完成させる問題などは、少し難しかったようです。その言葉を知らないと答えられないものや、知っている語彙をヒントに考える問題などもあるので、いろいろな言葉に興味を持ち、地道に語彙を増やしていくことが大切に思われます。また、問八の、文章から必要な情報を正確に読み取り整理する問題は、正答率がかなり低くなりました。問九の短文を作る問題は、シチュエーションがはっきりしない文章を書く受験生が多く見られました。長文読解問題は、実在した画家と筆者が時空を超えて出会うという小説で、正答率は68.5%でした。全体の正答率としてはよくできていましたが、5の「筆まめ」の意味を答える問題などは正答率が低く、やはり言葉を知らない受験生が多いようでした。読解問題全体としては、内容が読み取れている受験生も多く見られ、平均的な正答率となりました。

②第1回入試

平均点は56.9点。問題の構成は例年どおりで、知識問題などの小問集合を40点、文章読解(詩を含む)を60点として出題しました。小問集合は、基本的な問題の他に、ヒントを元に自分で考えて解く問題や語源に関する問題も出題しました。その言葉自体は知らなくても答えを導き出すことができるものもあるので柔軟な考え方ができるといいでしょう。また、問一の漢字書き取り問題の正答率は、昨年同様、少し低かったので、引き続き語彙を増やしていくことが大切であると思われます。問十一の短文作成問題は「かまける」という言葉を「頼る」「怠ける」「かまう」などの意味としてとらえている受験生が多かったようです。小問集合の正答率は56.5%でした。文章読解は、人が「嘘」をつくということから、自分のあり方を述べた論説文を出題。読み応えのある長めの文章でしたが、問題によっては正答率の高いものもあり、文章読解の正答率は57.1%でした。問一の漢字は「悪しき」の読みや「指摘」という漢字の不正解が目立っていました。最後の、本文全体の内容に関する問題は少し正答率が低かったようですが、全体としては難しい文章をよく読み解けた人も多かったように思います。文章量が多くても落ち着いて解答するには、日頃偏ることなく多くの文章に触れ、文章量の多い教材で練習を積み、時間配分を考えて解答する習慣を身につけていくことが必要です。

③第2回入試

平均点は45.4点。問題の構成、配点は推薦・第1回と同様です。小問集合は推薦や第1回の出題形式と同じパターンのものでいくつか出題しました。敬語に関する問題や言葉に関する問題など、言葉を知っていればできる問題がいくつかありましたが、それらの言葉や使い方を知らない受験生も多かったようです。問一の漢字問題では、「心象」や「向学」の正答率が低めでした。その他、慣用的な表現の問題(問三、問七)や語源に関する問題(問九)などは難しかった様子です。「しおらしい」を使った短文では「塩対応」の意味で使っているものやシチュエーションがはっきりしない解答が多く、減点対象となりました。小問集合の正答率は44.3%でした。文章読解問題は、文学的文章。誕生日会を巡る少女達の心情を描いた小説で、かなりの長文ではありましたが比較的読みやすい文章だったかと思えます。言葉に関する問いなどよくできていたものもありましたが、心情を問う問題や内容に関する記述問題は正答率が低めのものも目立ちました。特に記述問題では、自分の文章にして答えることが難しかったようで、苦戦していた様子がかがええました。文章読解の正答率は46.1%。こちらも第1回同様、語彙力を高めながら、なるべく文章量の多いものを時間内で整理しながら読む練習が必要となります。

2. 2027年度入試の傾向と対策

①全体の構成

今年度も推薦入試(40分、100点)、第1回・第2回入試(50分、100点)ともに、小問集合と文章読解問題1題という形式で出題します。推薦入試の長文読解の文字数の規定は設けませんが、第1回・第2回に比べると試験時間も40分と短いのので、第1回・第2回同様の大変長い長文が出るというわけではありません。入試の形式、内容、配点は例年どおりで変更はありません。

②小問集合について

漢字・熟語、ことわざ・慣用句、新聞等でよく用いられる語句(外来語も含めて)の意味選びなどの知識問題や、正しい言葉の使い方、文法、短文作りなど語句に関する問題が中心です。また、「ヒントに従って考える力」をみる問題や、感性・想像力をはかる問題も出題したいと考えています。近年は漢字・熟語などの「基本中の基本」をマスターしていない受験生が目立つので、難問ばかり解くのではなく、まずは意味を含めた漢字力を鍛えてください。

③文章読解問題について

全ての入試において1題だけの出題ですので、問題文自体は長めになると思います(推薦入試の場合は解答時間が少ないこともあり、平均的な分量になるかと思えます)。文章のジャンルとしては、説明的文章(評論など)か文学的文章(小説や随筆など)かのどちらかを出題します。

文章読解問題は、「要するに何がどうだと言っているのか」「だれがどんなことをして、どう思っているのか」という骨格を頭の中で確認しながら読むことが大切です。大筋をきちんとつかめれば、とんでもない間違いはしません。また、選択肢の問題で正答率をあげるには、解答の骨格となる内容を本文中から客観的に探し、それを別の言葉に置き換えて説明する訓練をしておくといいでしょう。記述問題に関しても、同様の訓練が必要になりますが、問いが求めている内容や答え方に合わせるために、その中心語句をどう変えなければならないか、あるいはそのままでもいいかなどよく考えましょう。例年、主語と述語がきちんと対応していないもの、要点は十分に捉えていても文末の答え方が不適切である記述解答を多く見かけます。問題文をよく読まず、指示した事柄に対応していないものや、「あてはまる」内容の選択肢を答えるのか、「あてはまらない」内容の選択肢を答えるのか、そのような初歩的なミスと思われる答案も多いので、十分に注意してください。また、本文の内容を元にして自分の考えを説明するような問題もあるかもしれません。常に柔軟な意識をもって物事に接していく必要があります。好奇心を持ち、語彙を豊富にして自在に思考を廻らすことができると良いと思います。

なお、小問集合、文章読解問題とも、出題する漢字は小学校で学習するものを原則としますが、よく日常で用いられるレベルのものについては、小学校で学習していないものを出题する場合があります。また、本文中の「ふりがな」についても、ある程度の読書習慣があれば読めるような常識的なものは、小学校の学習範囲以外でもつけない場合があります。

国語力を高めるのは、やはり読書習慣です。語彙を増やすとともに、他者理解の姿勢を身につけるためにも良質な文章をたくさん読むよう心がけてください。

2026年度入試 国語 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点が異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤	
問一	①	○					
	②		○				
	③		○			◎	
	④				○		
	⑤	○					
問二				○		◎	
問三				○			
問四					○		
問五				○			
問六			○				
問七			○				
問八	①			○			
	②			○			
	③				○		
問九			○				
問十	1	a			○		
		b		○			
		c	○				
		d		○			
		e				○	
	2	○					
	3	○					
	4	○					
	5			○			
	6		○				
	7		○				
	8		○			◎	
	9		○				
	10		○				
	11	○					
	12			○		◎	
13	○						
14		○			◎		
15	①		○			◎	
	②		○				
	③		○				
16		○					

第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
問一	①			○			
	②		○			◎	
	③			○		◎	
	④		○			◎	
	⑤			○		◎	
問二					○		
問三			○				
問四			○				
問五		○					
問六		○					
問七			○				
問八		○					
問九		○					
問十				○			
問十一					○		
問一	a	a	○				
		b		○			
		c			○		
		d				○	
		e				○	
	問二				○		
	問三			○			
	問四		○				
	問五		○				
	問六		○				
	問七	1	○				
2		○					
3				○			
問八					○		
問九			○			◎	
問十					○		
問十一				○			

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
問一	①		○				
	②				○		
	③			○			
	④				○		
	⑤		○				
問二			○			◎	
問三					○		
問四				○			
問五				○			
問六			○				
問七				○			
問八			○			◎	
問九				○			
問十		○					
問十一			○				
問一	a	a		○			
		b			○	◎	
		c		○			
		d		○			◎
	問二	①		○			
		②	○				
		⑬	○				
	問三				○		
	問四			○			
	問五			○			
	問六				○		
	問七					○	
	問八	A		○			
		B			○		
		C			○		
問九				○			
問十				○			
問十一			○			◎	
問十二				○			
問十三				○			
問十四					○		
問十五			○				

総合	59.7%
----	-------

大問別	一	56.7%
	二	54.4%
総合		55.6%

大問別	一	43.4%
	二	49.1%
総合		45.4%

< 算 数 >

1. 2026年度入試の問題分析

①推薦入試

出題内容は大問5題の構成で、整数・小数・分数の四則混合計算問題、短い文章形式の計算穴埋め問題、解法の経過を考えさせる問題、図形を利用した計算問題、グラフから数値を読み取る問題に分かれています。最初の四則混合計算問題は正答率が他の問題よりも高く、ほとんどの受験生が得点しています。それ以降の問題では、特殊算を出題していますので、代表的な問題を繰り返し解き、理解度を高めておくことが必要です。

平均点は 48.5 点。第1問の四則混合計算問題の正答率は 76.2 %と大変よくできていました。第2問の特殊算を使った一行問題は、正答率が 45.7 %となり合否の差がついた問題になりました。流水算・つるかめ算・平均算・仕事算は、演習を重ねることで必ず解けるようになります。第3問の正答率は 59.0 %となり、文章や規則をよく理解できていました。第4問の図形の問題は、(3)の正答率が低くなりました。図形の性質を使い、工夫して求めることで簡単に求めることができたのですが、気付かなかった受験生も多かったようです。第5問のグラフ問題は、正答率が 33.8 %と低くなっています。特に不合格の受験生は、(1)で間違えてしまうことにより、それ以降の問題が不正解になってしまったようです。グラフから情報を読み取り、考えることが大切です。日々の学習において、演習を繰り返すことで理解が深まります。

②第1回入試

出題形式は推薦入試とほぼ同じです。

平均点は 59.3 点。第1問の四則混合計算問題はとても高い正答率でした。第2問の特殊算を使った一行問題についてはつるかめ算・過不足算・仕事算を出題しました。(5)の周期を考える問題では、過去問をしっかりと解けば対策できます。また、(6)の正答率が低くなりました。第3問の経過を見る問題については、良く出来ていたと思います。第4問では、正答率が 46.7 %と全体的に良くありませんでした。図形に苦手意識がある受験生が多いように感じました。平面図形・空間図形の頻出問題を解くことで解法が身につきます。補助線や図形の性質を理解しておけば対応できます。第5問のグラフの問題は、正答率が 57.5 %となりました。第4問を解くまでに時間がかかってしまったことと、グラフの様々なパターンの類題を解いていないと思われる。グラフ全体を見て、状況を把握することができたかで差が出たと思います。(4)は、正答率が低く 16.3 %となりました。入試頻出問題なので、時間をかけて問題演習を繰り返してもらいたいです。

③第2回入試

出題形式は推薦入試とほぼ同じです。

平均点は 47.4 点。全体的に、第1問の計算力や第3問の正答率が高かったです。第4問の図形の問題は、少し工夫すると簡単に解ける問題もあります。過去問で準備をしっかりとすれば得点源になります。第5問のグラフ問題の正答率は 34.5 %と低くなっています。(1)で正答できずに(3)(4)が答えられなかった人が多く見られました。グラフの読み取りは、中学の数学でも必須です。情報を整理して、式を立て計算したりと数学の総合的な力が必要になります。類題や問題演習を通してしっかりと対策をしてもらいたいです。

2. 2027年度入試の傾向と対策

2027年度入試については、前年度の形式と同じで変更点はありません。最初に四則混合計算を数問出題し、次に文章形式の計算穴埋め問題を出題します。解法の経過を見る問題については、2問用意し、両問とも穴埋め問題です。図形、グラフといった問題も例年通り出題する予定です。

対策としては、第一に基本的な計算力をつけることです。四則混合計算は確実に得点できるようにしてください。また、中学受験に必要な様々な特殊算について理解を深めてください。最初の計算と、特殊算の一行問題、途中経過を見る問題で、テスト全体の約60%を占めます。経過、図形、グラフなどの応用問題も大切ですが、それ以上に基礎的な部分に目を向けてほしいと思います。また、問題をきちんと読み、立式できるように練習しましょう。図形問題については、円周率 3.14 などの小数を用いた計算で受験生間に差がつく傾向があります。グラフ問題については、分かったところから数値を書き入れるようにし、場合によっては自分で理解しやすくするために、与えられたグラフ以外に他の図などを描いたりすると良いでしょう。

2026年度入試 算数 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

第1回入試

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2		○			
	3		○			
2	1			○		
	2	○				
	3			○		
	4		○			◎
	5		○			◎
	6				○	
3	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ	○			
		エ	○			
		オ		○		
	2	カ	○			
		キ	○			
		ク	○			
		ケ			○	
		コ			○	
4	1		○			◎
	2			○		◎
	3				○	
5	1		○			◎
	2		○			
	3				○	
	4				○	

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2	○				
	3		○			
2	1		○			
	2			○		
	3		○			
	4		○			◎
	5		○			
	6			○		
3	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ	○			
		エ	○			
		オ		○		◎
	2	カ			○	◎
		キ			○	
		ク			○	◎
		ケ			○	
		コ				○
4	1		○			
	2			○		
	3			○		
5	1	○				
	2		○			
	3		○			◎
	4				○	

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2	○				
	3			○		
2	1	○				
	2			○		◎
	3			○		◎
	4		○			
	5				○	
	6				○	
3	1	ア	○			
		イ	○			◎
		ウ	○			
		エ	○			
		オ	○			
	2	カ	○			
		キ	○			
		ク	○			
		ケ	○			
		コ	○			◎
4	1				○	
	2			○		
	3			○		
5	1		○			
	2		○			◎
	3				○	
	4				○	

大問別	1	76.2%
	2	45.7%
	3	59.0%
	4	31.8%
	5	33.8%
総合	48.5%	

大問別	1	87.3%
	2	55.0%
	3	56.0%
	4	46.7%
	5	57.5%
総合	59.3%	

大問別	1	75.3%
	2	41.3%
	3	68.0%
	4	22.0%
	5	34.5%
総合	47.4%	

< 社会 >

1. 2026年度入試の問題分析

①推薦入試

社会と理科合わせて50分、配点は各50点満点です。

【地理】東京から東北地方を中心とした紀行文を題材に時事問題を出題したり、東北地方に関する新幹線や農産物のグラフなどを出題したり、東北地方から派生して日本の地形や東北地方に関係する人物など多角的に出題しました。全体的には正答率67.5%と高い結果となりました。しかし、汽水湖(淡水と海水が混じり合う湖)を答える問題は大幅に正答率が低く、参考書レベルの知識も必要でした。

【歴史】歴史と音楽の関連性をテーマにし、総合的に古代から現代まで様々な問題を出題しました。空らん補充問題では、「聖武天皇・孝謙天皇」や「保元の乱・平治の乱」などの前後関係や関連性の整理ができていませんでした。歴史用語を書かせる問題では、「遣唐使」の「遣」や「古墳」の「墳」など画数の多い漢字の誤字が目立ち、正答率が50%を越えませんでした。しかし、各時代の特徴を読み取って時代順に並べ替える問題は75%の正答率で、各時代の特徴をきちんと整理して受験にのぞんでいる姿勢がうかがえました。

【公民】日本国憲法をテーマに様々な問題を出題しました。憲法9条に関する正誤問題や憲法第25条の条文など憲法の条目についてよく勉強しており、全体的に正答率が60.8%と国の制度や仕組みについては高い理解度でした。しかし、国際情勢に関する問題は正答率が低く、国際情勢に対して無関心である受験生が多くいました。

②第1回入試

第1回入試の試験時間は、30分間で配点は60点満点です。

【地理】関東地方に関して出題しました。関東地方の各県の特色・交通、国土に関する問題やグラフ・表の読み取り問題でも受験生は論理的に考え、正答を導き出していました。ただ、「近郊農業」を答える問題で「郊」の誤字が多くありました。

【歴史】グループワークによる歴史理解に関する問題でした。説明文をよく読み理解力を求める選択肢問題は正答率は低い状態でした。史料問題では、前後から2.26事件を理解した受験生は正答を導き出せていました。時代の並べ替え問題では、歴史の流れを理解できている人と、ただ暗記で対応していた受験生の間で差がつかまりました。また、歴史用語の漢字のミスも顕著に見られました。

【公民】選挙・国会・内閣について出題しました。基本問題では高い正答率でした。しかし、時事問題を絡めた問題は、正答率が低くなり、中でも各政党の政治綱領である「マニフェスト」が答えられない生徒がほとんどでした。また、現総理の氏名を書けない受験生が多くいました。

③第2回入試

第2回入試も第1回入試と時間・配点は同様です。しかし、テーマについて事前公開はしておりません。

【地理】東北地方をテーマに出題しました。基本的な用語や地図記号、表の読み取りなど、過去問でも頻出の問題はよくできていました。一方で、やませによるコメの収穫量の減少を地図で表した問題など、知識を用いて考察する問題や「モーダルシフト」のような時事問題的な用語の正答率が低かったことが気になりました。

【歴史】日本の対外戦争をテーマに、古代から現代に至るまで日本の歴史を俯瞰した問題を出題しました。基本問題はよくできていましたが、歴史用語の漢字のミスが多く目立ちました。また、昭和史周辺が全体的に正答率が低く、現代史が弱い傾向が見られました。

【公民】日本の三権分立をテーマに多角的に出題しました。基本的問題は受験生は手堅くおさえていました。ただ、国民の最高裁判所裁判官国民審査に関する正誤問題では、やや難問であったようで正答率が下がりました。また、日本の議院内閣制がイギリスの責任内閣制から影響を受けたものであるという認識が薄かった点も気になりました。

以上の3回の入試を踏まえて、合否の差は、社会科の用語を正確に漢字で書けているかどうかという点と、出題の意図をきちんと把握して解答できているかの読解力によるものでした。慌てず、直感力ではなく丁寧に問題を読む力が合否のカギになると思います。

2. 2027年度入試の傾向と対策

推薦入試、第1回・第2回のいずれの入試も「地理」「歴史」「公民」の3つの分野から出題します。推薦入試は地理・歴史合わせて35点前後、公民は15点前後の予定です。第1回・第2回入試は地理・歴史がそれぞれで20～25点、公民は15点前後の予定です。大問と出題分野はおおよそ対応しますが、あえて分野横断的な事項を問うこともあります。このような出題は、積極的に行っていきたいと思います。また、分野を問わず、時事問題的要素を含む出題も行います。

推薦入試に関しては、理科と合わせて50分という短い試験時間になっていますので、時間配分に気をつけてください。難易度については、第1回・第2回に比べて、推薦入試は基礎的な問題を多く出題します。また、いずれの入試でも簡単に説明してもらう論述問題を出題することがあります。問いに対する答えを的確に文章で表現できるように練習しておいてください。

なお、地名・人名・事件名などの用語を答える場合は、必ず漢字で解答してください。誤字は言うまでもなく、ひらがなも原則として得点にはなりません。そのため普段からきちんと漢字で書く習慣を身につけてください。

例年、ただ知識を問う問題や、説明会で解説したテーマそのままの問題については正答率が高く、ここは合格のためには落とせない部分です。また、どの入試でも時事問題に関する出題の正答率が高く、よくチェックしていることがうかがえました。差がつくのは、時代や出来事についての理解を問う問題(さらにそれを説明する論述問題)、表・グラフ・資料を読み解く問題、問題文をよく読み「何を聞かれているのか」把握する問題、時代の並び替え問題、歴史分野での日本の国際関係に関わる問題、そして漢字の正確さです。こういった問題をどれだけ解くことができるかが、合否を分けます。特に、漢字をきちんと書ける人とそうでない人がはっきりと分かれるようになってきました。漢字を正確に書く人は、その他の問題の正答率も高く、漢字が不正確な人は、その他の問題も解けていません。カタカナも「ア」と「イ」の区別がつかない解答があるので丁寧に書く習慣をつけてください。丁寧に学習する姿勢が、それだけ重要だということです。

2026年度入試 社会 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

第1回入試

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1		○				
	2		○				
	3	○					
	4		○				
	5		○			◎	
	6		○				
	7	①		○			◎
		②				○	
	8	○					
	9		○				
10		○					
2	1				○		
	2		○				
	3		○				
	4			○			
	5		○			◎	
	6	A			○		
		B			○		
		C			○		
D					○		
7		○			◎		
3	1			○			
	2		○				
	3		○				
	4		○				
	5		○				
	6		○				
	7		○				
	8		○				
	9		○				
	10			○			
	11		○			◎	

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2	○				
	3		○			
	4	○				
	5	○				
	6		○			◎
	7	○				
	8	○				
	9		○			◎
	10	○				
	11		○			◎
2	1		○			
	2			○		
	3		○			
	4			○		
	5		○			
	6	○				
	7	○				
	8			○		
	9		○			
	10				○	
	11		○			
	12		○			◎
3	1	○				
	2			○		
	3	○				
	4				○	
	5		○			
	6	○				
	7		○			
	8			○		◎
	9		○			
	10			○		

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2	○				
	3	○				
	4	○				
	5	○				
	6		○			
	7			○		
	8		○			
	9			○		
	10			○		◎
	11	○				
2	1		○			
	2			○		
	3		○			
	4				○	
	5			○		◎
	6		○			
	7				○	◎
	8			○		
	9		○			◎
	10				○	
	11				○	
	12			○		
3	1	①		○		
		②	○			
	2			○		
	3	○				
	4		○			
	5	○				
	6		○			◎
	7	○				
	8			○		
9		○				

大問別	1	67.5%
	2	45.0%
	3	60.8%
総合		58.1%

大問別	1	81.3%
	2	56.1%
	3	55.6%
総合		64.3%

大問別	1	73.0%
	2	35.9%
	3	67.4%
総合		57.8%

< 理科 >

1. 2026年度入試の問題分析

①推薦入試

問題数は大問4問です(50点満点、総問題数は21問)。大問1は生物分野で「ヒトの血液」に関する出題でした。血液の重さから体重を求める計算問題と献血の理由を選ぶ問題の正答率が低くなりました。大問2は化学分野で「水の状態変化」に関する出題でした。同じ重さで各状態の体積の大きさを比べる問題、沸騰の現象に関する問題2問の正答率が低くなりました。大問3は地学分野で「地震」に関する出題でした。震度の説明問題、P波の速さを求める問題、災害用伝言ダイヤルの3桁の数字を答える問題の正答率が低くなりました。大問4は物理分野で「磁石」に関する出題でした。コイルの磁界を強くする方法を答える問題の正答率のみ高くなりましたが、その他のすべての問題の正答率は低くなりました。合否の正答率の差が大きくなった5問は、大問1(生物)の血液の重さから体重を求める計算問題、大問3(地学)の震度の説明を選ぶ問題、震源の深さを求める問題、地震の仕組みを選ぶ問題、大問4(物理)の電磁石を利用しているものを選ぶ問題となりました。

②第1回入試

問題数は大問4問です(60点満点、総問題数は24問)。大問1は生物分野で「メダカ」に関する出題でした。すべての問題で正答率が高くなりました。大問2は化学分野で「酸性とアルカリ性の水溶液」に関する出題でした。水に溶けない塩を答える問題、濃い水酸化ナトリウム水溶液に溶ける金属を選ぶ問題、酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液を混ぜて中性にする時の水溶液の体積を求める問題の正答率が低くなりました。大問3は地学分野で「太陽系の惑星」に関する出題でした。昨年度は主に金星と地球に関する出題でしたが、今年度は8つの惑星に関わる出題でした。7つの惑星が一直線上に並んで見える理由を選ぶ問題、水星と土星を見つけるのが難しい理由を選ぶ問題の正答率が低くなりました。大問4は物理分野で「小球の運動」に関する出題でした。小球の飛び出す方向を選ぶ問題の正答率がやや低くなりました。合否の正答率の差が大きくなった5問は、大問2(化学)の水に溶けない塩を答える問題、酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液を混ぜて中性にする時の水溶液の体積を求める問題、大問3(地学)の金星・木星・火星を選ぶ問題、大問4(物理)の打ち込まれた釘の長さから小球の高さを求める問題と重さを求める問題2問となりました。

③第2回入試

問題数は大問4問です(60点満点、総問題数は26問)。大問1は生物分野で「光合成と呼吸」に関する出題でした。光の強さの影響に関する問題の正答率が低くなりましたが、それ以外の問題の正答率は高めになりました。大問2は化学分野で「ものの燃え方」に関する出題でした。ポリエチレンなどの有機物を燃やしたときに生じる共通の物質を答える問題、木を蒸し焼きにしたときに生じる3つの物質を答える問題、金属の燃え方で正しいものを選ぶ問題の正答率が低くなりました。大問3は地学分野で「天気」に関する出題でした。天気予報で出てくる言葉をはじめ、天気の情報や天気図を使って考える問題となっており、太平洋高気圧と関連の深い気団を答える問題の正答率は高くなりましたが、その他の問題の正答率はかなり低くなりました。大問4は物理分野で「光」に関する出題でした。光の進む向きを屈折や反射の現象から考えていく問題となっており、鏡の縦の長さを答える問題の正答率は高くなりましたが、その他の問題の正答率は低めで、特に最初の2問と最後の2問の正答率はかなり低くなりました。合否の正答率の差が大きくなった5問は、大問1(生物)の2種類の植物の違いを選ぶ問題、大問2(化学)の木を蒸し焼きにしたときに生じる3つの物質を答える問題、大問3(地学)の太平洋高気圧と関連の深い気団を答える問題、大問4(物理)の鏡に映った人を見ることができない位置を選ぶ問題、鏡の縦の長さを答える問題となりました。

2. 2027年度入試の傾向と対策

2027年度入試についても、推薦・第1回・第2回のすべての入試で、大問4問(生物分野・化学分野・地学分野・物理分野)の出題とし、それぞれ制限時間に見合った問題数での出題を予定しています。総問題数については、例年推薦は25問程度、第1回と第2回は30問程度としていましたが、2026年度入試では、いずれも総問題数は少なくなりました。大問の出題内容と難易度、また全体の難易度を考慮しながら、それぞれの大問毎の問題数が5~7問程度になる予定です。難易度についても例年通りの予定ですが、生物・化学・地学・物理のそれぞれの科目内でも分野特性がありますので、出題内容によって難易度に差を感じる問題もあると思います。各回ともに、基礎的な知識を問う問題、計算問題、グラフや図から規則性を読み取る問題などを出題する予定です。また、問題文で与えられた条件から考察する問題、簡単に説明する問題、知識を活用しながら答えを導く問題についても出題する場合があります。

2026年度入試 理科 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点が異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2		○			◎
	3				○	
	4			○		
	5		○			
2	1		○			
	2			○		
	3	○				
	4			○		
	5				○	
3	1			○		◎
	2		○			◎
	3				○	
	4		○			◎
	5				○	
	6		○			
4	1			○		
	2			○		
	3			○		◎
	4	○				
	5			○		

第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2	○				
	3	○				
	4		○			
	5	○				
	6	○				
2	1	○				
	2		○			
	3			○		◎
	4			○		
	5	i	○			
	ii		○		◎	
3	1	○				
	2			○		◎
	3		○			
	4			○		
	5				○	
	6		○			
4	1		○			
	2		○			
	3			○		
	4		○			◎
	5		○			◎
	6			○		

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1		○			
	2	①		○		
		②		○		
		③		○		
	3	○				
4				○		
5		○			◎	
2	1	○				
	2			○		
	3		○			
	4			○		◎
	5			○		
	6			○		
3	1				○	
	2				○	
	3	i		○		◎
		ii			○	
	4				○	
	5				○	
4	1				○	
	2				○	
	3			○		◎
	4			○		
	5	i		○		◎
		ii			○	
6				○		

大問別	1	55.5%
	2	41.7%
	3	40.7%
	4	40.3%
総合		44.3%

大問別	1	90.3%
	2	51.9%
	3	54.1%
	4	59.0%
総合		63.8%

大問別	1	55.4%
	2	46.7%
	3	16.0%
	4	26.4%
総合		36.5%

Memo

Memo

